

医療

77歳の男性。昨年7月、肝臓のCT（コンピュータ断層撮影）検査を受けた際、たまたま、腹部大動脈瘤を指摘されました。その時の大きさは4センチでした。経過観察をして、今年1月の検査でも同様に4センチでした。この後、手術などが必要になる目安を教えてください。（兵庫県・I）

Q どんな病気でしょう。

A 心臓から全身に血液を送る大動脈の一部が、外側に膨れてくる病気です。大動脈瘤ができる場所には、心臓に近い胸部と、もつと下の腹部とがあります。患者数は腹部の方が多いです。内科を受診している人が、超音波検査などでたまたま発見されることがよくあります。動脈瘤ができる主な原因は動脈硬化で、60歳以上の男性に比較的多い病気です。

Q 大きさが4センチというのは、

■腹部大動脈瘤の目安

どうしました



やまもと しん
山本 晋さん

川崎幸病院大動脈センター長
（大動脈外科） 川崎市

「5センチ以上」「急膨張」は手術

大丈夫なのでしょうか。

A 大動脈瘤が破裂すると命にかかります。手術の目的は、破裂を予防することです。手術をするかどうかは、破裂するリスクがどれくらいあるかによって判断します。破裂したか破裂しかけの患者を治療した例では、6センチの人がいます。基本的には、大きさが5センチ以上の場合に手術をしていま

す。また、3・5センチだったのが4

センチに急に大きくなっている場合にも手術をした方がいいでしょう。この方のように、4センチで変化していないならば、私の方から手術を勧めることはありません。

Q どんな手術になりますか。

A おなかを10センチほど切って、大動脈を人工血管に置き換ええます。私たちの病院では、平均して

2時間ぐらいで終わり、輸血もほとんど必要ありません。入院期間は、手術前の検査を含めて10日間ほどです。

Q 高齢の患者でも手術はできますか。

A 胸部大動脈瘤に比べて、腹部の手術は安全にできます。全身の状態さえ良ければ、80歳以上でも手術ができます。手術のリスクに比べ、破裂のリスクが高ければ手術をしたほうがいいでしょう。

Q 手術をした場合、その後の生活に何か制限はありますか。

A ありません。登山、水泳、柔道などの運動を含めて、何をしても大丈夫です。人工血管は改良が進んで耐久性が良くなっています、何年か後に取り換えるという必要もありません。